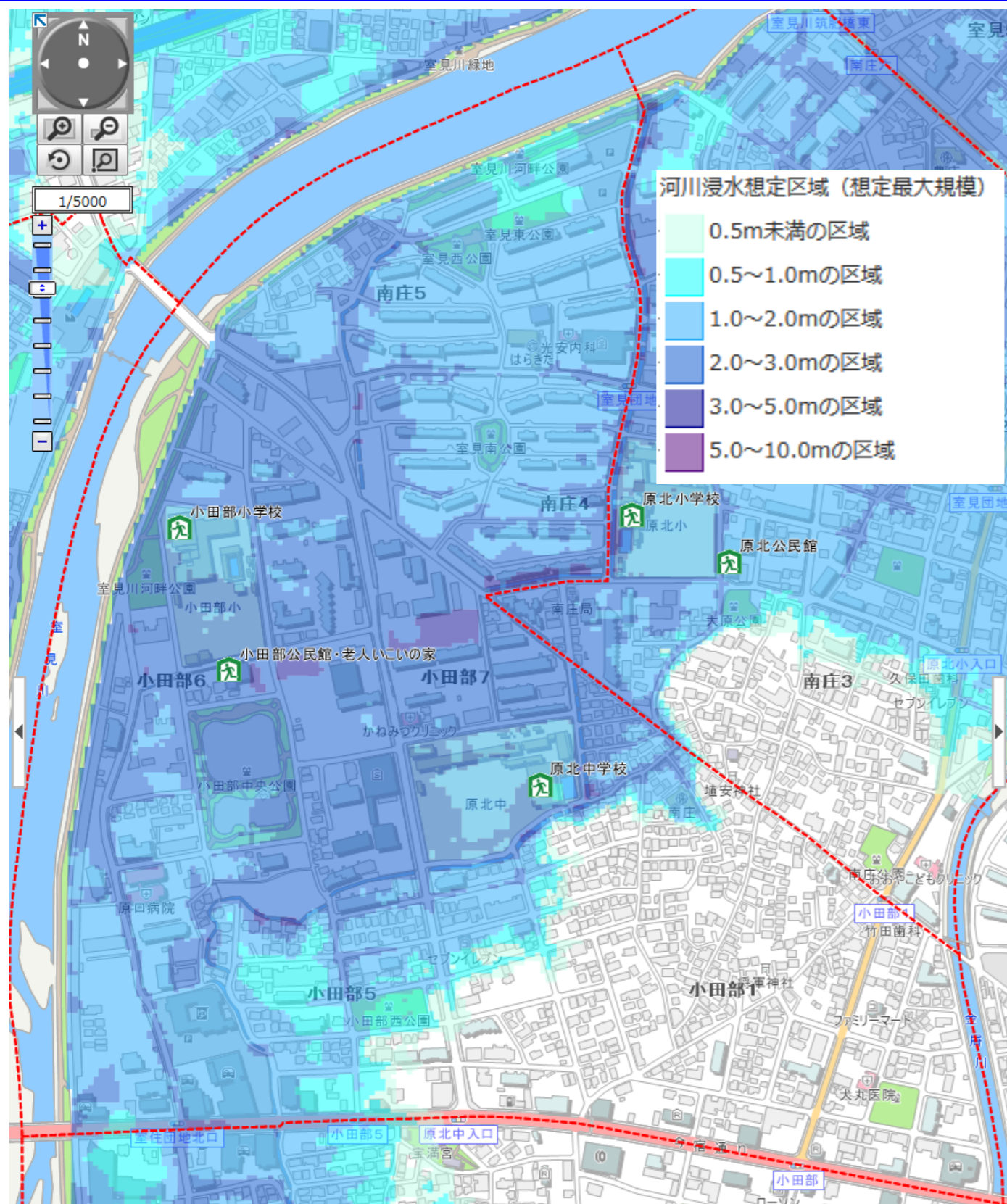




# 小田部 校区 だより

令和2年9月防災特集号 令和2年8月23日発行

小田部校区自治協議会事務局 office@kotabe.skr.jp https://kotabe.skr.jp/



6月に改訂された洪水ハザードマップの小田部校区部分

## ■洪水ハザードマップとは

洪水の時に、どこがどのくらい浸水するかを地図で示したものを洪水ハザードマップといいます。これをみると、どこがどのくらい危ないのかがわかります。ホームページ(福岡市総合ハザードマップ)で詳しく見ることができます。印刷したものは公民館にあります。

これは6月に改訂されたもので、以前のものよりも浸水深が深く、範囲が広がりました。1000年に1度の洪水を想定しているため、洪水ごとに必ずこの範囲が浸水するわけではありませんが、浸水しやすさの目安になります。避難勧告等はこれを元に発令されます。自宅の位置と色を確認しておきましょう。

## ■洪水を考える

**洪水とは** 川や排水路の能力を超えるような大雨が降ると、行き場を失った水が溢れます。水はすぐさま低い場所に移るので、低い土地や家屋から浸水してしまいます。高さや場所のわずかな違いで被災したりしなかったりするのが洪水被害の特徴です。

**室見川の氾濫** 室見川の氾濫はこの70年ほどは起こっていませんが、近年の災害報道を見るまでもなく警戒はしておくべきです。左のマップは、室見川の氾濫を想定したものです。室見川は短いため大雨により水位が一気に上昇する特徴があります。大雨の時に見に行かないようにしましょうね。橋本橋に監視カメラがあり、校区ホームページからも見ることができます。

**内水氾濫** 水路や下水道の能力を超える大雨が降ると、一時的に浸水することがあります。これを内水氾濫といい、室見川の氾濫よりも現実的な被災パターンです。用水路の境界が見えなくなったりしますので、移動の際には注意しましょう。

## ■どうする？避難

避難とは「難」を避けることです。慌てて行動すると難に向かって行ってしまいかもしれません。さて、どうしましょうか。

**慌てて移動する必要はない** 土砂災害が想定される場所にいたら、すぐに安全な場所へ移動すべきです。ただし小田部校区には土砂災害警戒区域はありません。着色されている場所でも建物の2階以上にいればとりあえずは安全です。土地がかさ上げされていれば1階でも大丈夫かもしれません。大雨の最中、あるいは夜間に移動する方がよほど危険です。とにかく慌てないことです。

**避難所はどこにある** 左のマップには避難所である公民館と小学校、中学校がマークで示されています。ところが困ったことに、どこも浸水想定区域にあります。これは、小田部校区の成り立ちに由来しています。

このため建物の1階は避難場所として使用できないことになっています。また1万人の住民と比べれば収容能力は全く足りません。避難所に行けばいいというわけではない、自宅でじっとしていることも立派な避難と考えましょう。

## ■防災ミーティングにおいでください

小田部校区では、災害に備える方法をみんなで考える場「防災ミーティング」を、奇数月の第2火曜日 19:30 から公民館で行っています。災害の時にどうしたらいいか不安…だからみんなで考えましょう。災害の時だから力になりたい…災害時にはふだん以上に助け合いが大切です。小田部校区なりの答えを見つけていきましょう。どなたでも自由に参加できますので、どうぞおいでください。